

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
専門学校未来ビジネスカレッジ		昭和61年10月30日		今井 秀幸		〒 390-0841 (住所) 長野県松本市渚2丁目8番5号 (電話) 0263-26-5500				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人未来学舎		昭和61年10月30日		青山 織人		〒 390-0841 (住所) 長野県松本市渚2丁目8番5号 (電話) 0263-26-5500				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
工業	工業専門課程	クリエイティブデザイン学科		平成21(2009)年度	-	平成30年(2018)年度				
学科の目的	本学科では、様々な分野のデザイナー・クリエイターを目指すために必要な、知識及び技能を身に付ける。DTP、タイポグラフィ、広告制作、パッケージデザイン、イラストレーション、映像編集、WEBサイト制作等の多岐に渡る学習を通じて、色彩感覚や造形センスを養い、デザインツールの利用技術向上と実務に役立つデザインスキルの定着を目指す。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	多岐にわたるデザイン技術と表現方法を学ぶことができる学科です。デザインの基礎から実践的な技術まで、幅広く学べます。例えば、IllustratorやPhotoshopの基本操作、HTML5やCSS3を使ったWebサイトデザイン、動画制作技術などを習得します。(令和5年度の中退学率は8%)									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	
			62 単位	16 単位	15 単位	0 単位	0 単位	0 単位	40 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)						
60 人	32 人	0 人		0 %						
就職等の状況	■卒業生数(C)		16	人						
	■就職希望者数(D)		16	人						
	■就職者数(E)		13	人						
	■地元就職者数(F)		12	人						
	■就職率(E/D)		81	%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		92	%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		81	%						
	■進学者数		0	人						
	■その他									
	フリーランスで活動:3名									
(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)										
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) 株式会社プラルト、株式会社デザイン計画、津具屋製菓有限公司 など								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無					
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.mirai.ac.jp/mit/course/create-design/index.html">https://www.mirai.ac.jp/mit/course/create-design/index.html</a>									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)									
	総授業時数								単位時間	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数								単位時間		
うち企業等と連携した演習の授業時数								単位時間		
うち必修授業時数								単位時間		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数								単位時間		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数								単位時間		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)								単位時間		
(B:単位数による算定)										
総授業時数								62 単位		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数								単位		
うち企業等と連携した演習の授業時数								5 単位		
うち必修授業時数								62 単位		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数								単位		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数								5 単位		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)								単位		

教員の属性（専任教員について記入）	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人
	計	2人
	上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	1人

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

デザイン業界、CG・映像・クリエイティブ業界の求める専門知識・技術と即戦力を持ち、また現場が期待する総合的な人材像を職業人教育・人間力育成の柱として、学校と業界とが連携して教育を行う「産学協同教育」を教育の基本としている。また、人材育成のための授業方法や最適な科目構成を検討し改善するために、教育課程編成委員会を設置の他、様々な業界人の講演会を開催して、ヒアリング等これを活用して業界企業等からの要請や最新動向などを学科の教育活動に十分に取り入れることを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は教務部の下に置く。委員会において学期および年度における「教育課程の成果・反省点・問題点」などについて報告を行う。これを受けて、委員会は「教育課程編成の再検討、授業内容の改善」などを提言・助言する。委員会からの提言や助言を受けて、教務部は検討を行い、校長の許可を経て「次学期・次年度の教育課程、授業内容の見直し」などを行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
溝口 諒	長野県デザイン振興協会	令和4年10月1日～令和6年9月30日(2年)	①
高山 由利子	株式会社第一印刷	令和4年10月1日～令和6年9月30日(2年)	③
栗田 梓	学校法人未来学舎 専門学校未来ビジネスカレッジ 学科長□		—
関 万由子	学校法人未来学舎 専門学校未来ビジネスカレッジ 講師□		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、2月)

(開催日時(実績))

第18回 令和5年9月29日 15:30～16:30

第19回 令和6年2月27日 15:30～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

学生動向について、2023年度は1年生の退学率が多く、また退学理由についても一部課題がつらくてという理由があったことについて報告し、課題の取組方法については検討する余地があった。ついで、検定取得についても、検定種類については改善の余地があるのではないかと話になり、ライセンスがない業界での検定のあり方については、また別途話を進める必要性があると感じた。企業連携の取り組みについては、現状維持で十分効果があったのではないかと結論になった。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針  
本学科において、より実践的かつ専門的な高度職業教育を行うために学校と企業・業界団体等が講師契約を締結し、その連携のもと、企業が求めるレベルを実現する技術を学び、現場の社員の声を聞き、現場で適切に対応できる実践教育の機会を提供する。さらにデザイナー又はクリエイター職としての職業観・勤労観を育み、知識と技術の向上を図ることを企業等との連携に関する基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容  
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記  
企業が毎年発行する年賀状見本のデザイン案の一部を学生にらせていただき、企業様の選考によって選ばれた作品が見本帳に掲載されるという案件と、同じく毎年自社の屋上で採取されるはちみつの販売用ラベルデザインを考案し、企業様へ納品している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
修了制作1	2024年兔年年賀状見本制作	株式会社第一印刷(安曇野市)
プロジェクト演習2	2024年春はちみつラベルデザイン制作	株式会社井上(松本市)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記  
本学科において、より実践的かつ専門的な高度職業教育を行うために学校と企業・業界団体等が講師契約を締結し、その連携のもと、企業が求めるレベルを実現する技術を学び、現場の社員の声を聞き、現場で適切に対応できる実践教育の機会を提供する。さらにデザイナー又はクリエイター職としての職業観・勤労観を育み、知識と技術の向上を図ることを企業等との連携に関する基本方針とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ミライドルチェメルカート2024	連携企業等:	井上百貨店(松本市)
期間:	令和5年8月26日(土)~27日(日)	対象:	関・栗田
内容	本校パティシエブーランジェ学科とコラボレーションし、学生主体のチーム実習販売を通し、コミュニケーションの重要性やブランディングでの販売成果の違いなどを学んだ。		

<b>②指導力の修得・向上のための研修等</b>	
研修名: SNSの危険性とその留意点	連携企業等: 長野県専修学校各種学校連合会
期間: 令和6年3月25日(土)	対象: 栗田
内容 主に職場でのコミュニケーションについて、どのような視点でヒアリングをするか、また話を進めるかなどの技術的な研修をさせていただきました。	
研修名: ハラスメント研修	連携企業等: 弁護士 出井博文氏
期間: 令和6年3月22日(金)	対象: 関・栗田
内容 各種ハラスメントを理解し、また、県内外の事例を知ることで、学生指導や保護者対応の参考とし、学生が安心して学校生活を送れるように、また、職場の人間関係も円滑となるよう受講した。	
<b>(3) 研修等の計画</b>	
<b>①専攻分野における実務に関する研修等</b>	
研修名: デザインフェスタvol.59見学および森美術館研修	連携企業等: 東京国際展示場
期間: 令和6年5月19日(日)～20日(月)	対象: 関・栗田
内容 アジア最大級のイベントと言われる祭典に参加し、多角的に見学を実施する。プロ・アマチュア問わず、「自由に表現できる場」を提供するアートイベントとして1994年から始まり、年齢や国籍、ジャンルやスタイルを問わずに集まった1万人以上のアーティストが作り出すオリジナル作品とのふれあいを期待する。	
<b>②指導力の修得・向上のための研修等</b>	
研修名: SNSの危険性とその留意点	連携企業等: セーフティネット総合研究所
期間: 令和6年4月7日(金)	対象: 関
内容 前年度に引き続きSNSの危険性とその留意点についての最新情報等を学生に指導するために受講する。	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
<b>(1) 学校関係者評価の基本方針</b>	
学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」を元に、自己点検評価表を策定し、その自己点検評価表の適性度を学校関係者評価委員会により点検・評価する。当該委員会の議論及び意見を基に作成した「学校関係者評価報告書」を学校長が再点検の上、次年度の学校運営に反映させる方針とする。	
<b>(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</b>	
<b>ガイドラインの評価項目</b>	<b>学校が設定する評価項目</b>
(1) 教育理念・目標	教育理念目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	特に記載なし
※(10)及び(11)については任意記載。	
<b>(3) 学校関係者評価結果の活用状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学修成果としての資格の取得率の向上や各学科の授業成果について高い評価をいただくことができました。次年度も引き続き学校全体で取り組む計画としたい。</li> <li>・学校ホームページやSNS等の有効活用についてご意見を頂き、ホームページについてはリニューアルの参考にし、SNS等の活用は今後も研究を続け情報発信をしていく。</li> <li>・就職して困らないよう今後も知識・技術だけではなく、挨拶やコミュニケーション、チームワークなど授業内でも指導をしていく。</li> </ul>	

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
令和5年10月20日現在			
名前	所属	任期	種別
片瀬 拓弥	学校法人清泉女学院 清泉女学院短期大学	令和4年10月1日～令和6年9月30日(2年)	学識経験者
矢内 和博	学校法人松商学園 松本大学	令和4年10月1日～令和6年9月30日(2年)	学識経験者
林 兵司	パン工房 ブール	令和4年10月1日～令和6年9月30日(2年)	企業等委員
西村 明美	株式会社たちばな松本あづみの店	令和4年10月1日～令和6年9月30日(2年)	企業等委員
山田 佳代子	ポアレスチュール	令和4年10月1日～令和6年9月30日(2年)	企業等委員
北村 理恵子	Dog Life Lien	令和4年10月1日～令和6年9月30日(2年)	企業等委員
溝口 諒	でざいと	令和4年10月1日～令和6年9月30日(2年)	企業等委員
加藤 博史	医療法人社団敬仁会 桔梗ヶ原病院	令和4年10月1日～令和6年9月30日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
 ( ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )  
 URL: <https://www.mirai.ac.jp/information/index.html>  
 公表時期: 令和6年6月下旬

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針  
 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目に基づき、学校の概要、目標及び計画、各学科等の教育、教職員、キャリア教育・実践的職業教育、様々な教育活動・教育環境、学生の生活支援、学生納付金・修学支援、学校の財務、学校評価について、公益法人として関連団体・業界・学生就職先のほか、広く万人に発信する。ただし、国際連携については、今後、実施後に公表する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法  
 ( ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )  
 URL: <https://www.mirai.ac.jp/information/index.html>  
 公表時期: 令和6年6月下旬

授業科目等の概要

(工業専門課程 クリエイティブデザイン学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	情報リテラシー1	インターネット活用、ワープロ、表計算、プレゼンテーション技法など、企業で多く活用されているOffice系ソフトの基本操作を習得し、検定取得を目標とする。	1・前	30	1			○	○		○		
			○	情報リテラシー2	インターネット活用、ワープロ、表計算、プレゼンテーション技法など、企業で多く活用されているOffice系ソフトの基本操作を習得し、検定取得を目標とする。	1・後	30	1			○	○		○		
			○	情報リテラシー3	インターネット活用、ワープロ、表計算、プレゼンテーション技法など、企業で多く活用されているOffice系ソフトの基本操作を習得し、検定取得を目標とする。	2・前	30	1			○	○		○		
			○	キャリアプランニング1	キャリア教育の一環として、ライフデザインの考え方、他者とのコミュニケーションの取り方、履歴書作成、企業情報の取得方法、面接指導などを実施する。	1・2通	30	1	○			○		○		
			○	キャリアプランニング2	キャリア教育の一環として、ライフデザインの考え方、他者とのコミュニケーションの取り方、履歴書作成、企業情報の取得方法、面接指導などを実施する。	1・2通	30	1	○			○		○		
			○	キャリアプランニング3	キャリア教育の一環として、ライフデザインの考え方、他者とのコミュニケーションの取り方、履歴書作成、企業情報の取得方法、面接指導などを実施する。	1・2通	30	1	○			○		○		
			○	実務教養1	就職試験対策や企業に入る前に必要な一般教養を修得する。【サービス接遇マナー、経済学、経営学、心理学、販売学、時事問題、就職用SPI対策、漢字検定対策、数学検定対策など】	1・2通	30	1	○			○		○		
			○	実務教養2	就職試験対策や企業に入る前に必要な一般教養を修得する。【サービス接遇マナー、経済学、経営学、心理学、販売学、時事問題、就職用SPI対策、漢字検定対策、数学検定対策など】	1・2通	30	1	○			○		○		
			○	実務教養3	就職試験対策や企業に入る前に必要な一般教養を修得する。【サービス接遇マナー、経済学、経営学、心理学、販売学、時事問題、就職用SPI対策、漢字検定対策、数学検定対策など】	1・2通	30	1	○			○		○		
			○	総合演習1	リメディアル教育【読み・書き・計算】及び生きる力【生活指導・道徳指導・内外ボランティア】など、専門知識・技能の修得の土台となる学習態度・基礎的知識を向上させる。	1・2通	30	1	○			○		○		





24		○	イラストレーション1	基本的な線画イラストの技術向上を図る。静物画を始め、抽象的なイメージイラストの制作を通し、表現の幅を広げる。	2前	30	1				○	○					○	
25		○	WEBサイトデザイン1	Webサイト制作の基礎であるHTML、CSSを駆使して、レイアウトデザインの基本構成とWebデザインの技法を習得する。	1後	60	2	○		△	○						○	
26		○	WEBサイトデザイン2	JavaScriptなどのインタラクティブなデザインはもとより、PHPやWordPressなどサーバーサイドの技術も習得する。	2前	30	1	○		△	○						○	
27		○	撮影編集技法1	一眼レフカメラの撮影方法および動画撮影。さらに画像補正および動画編集を学ぶ	1前	30	1				○	○					○	○
28		○	撮影編集技法2	一眼レフカメラの撮影方法および動画撮影。さらに画像補正および動画編集を学ぶ	1前	30	1				○	○					○	○
29		○	クラフト実習	各種機材を使用したクラフト造形を学ぶ。	1後	60	2				○	○					○	○
30		○	広告表現/カラーイラスト演習	印刷・出版・広告業界で仕事をしていく上で必要となる知識を、実習。カラーイラスト演習では1枚のイラストで物語が理解できるように躍動感のある構成を考えながら技術を磨く	1後	60	2	△			○	○					○	
31		○	コミックイラスト演習/メディアデザイン	コミックイラスト演習では、漫画の要素を取り入れながら情報発信できることを目標とし、メディアデザインでは、主にパッケージデザインのあり方を学び、コンペへの出品を目指す。	2前	90	3	△			○	○					○	
32		○	DTPデザイン演習	DTPとエディトリアルデザインについて、演習を通じて実務レベルに繋がる基礎を習得する。	1後	60	2	△	○			○						○
33		○	DTP・タイポグラフィ	文字の成り立ちについて学び、正しい文字選びについて技術をみにつける	1後	30	1	△	○			○						○
34		○	ブランディング	顧客にとっての企業価値を高める手法を、各種テーマに沿ったクリエイティブ作品、デザイン制作を通じて学ぶ。	2前	90	3	△			○	○						○
35		○	造形実習1	木材加工やステンドグラス制作、樹脂造形などを通し、モノづくりの基礎を学ぶ	2前	30	1				○	○						○
36		○	造形実習2	木材加工やステンドグラス制作、樹脂造形などを通し、モノづくりの基礎を学ぶ	2前	30	1				○	○						○
37		○	業務演習1	各自の就職先に応じた特に必要とされる知識・技術・検定取得・資格取得を目指す。学生の希望や能力に応じた効果的な学習を行う。	2後	60	2	△	○			○						○

38	○	業務演習2	各自の就職先に応じた特に必要とされる知識・技術・検定取得・資格取得を目指す。学生の希望や能力に応じた効果的な学習を行う。	2後	60	2	△	○	○	○
39	○	卒業制作／総合実習	各自がテーマ設定し、技術の向上を目標に、2年間で学んだ知識や技術を集大成した自主的な制作を行う。総合的な技術（グラフィックデザインやコンテンツ制作に関する全般技術等）や知識を企業等で実践して行い、専門知識・技能の修得の基礎的知識を向上させる。／内定先のデザイン事務所、印刷会社等において、課題を提示してもらい、現場で実習を行って課題を達成することをもって、卒業制作に代える。	2後	240	8		○	○	○
40	○	表現技法	アナログ表現に特化した科目。デジタルでは表現できない分野を各自研究し、作品制作に取り組む。	2後	60	2	△	○	○	○
41	○	デザイン演習	これまでに学習したことを総ざらいし、就職活動または卒業後の仕事につながるような、具体的な制作物の制作に取り組む	2後	30	1		○	○	○
42	○	動画編集技法	AfterEffectsに特化したビデオ制作に取り組む。	2後	60	2		○	○	○
43	○	POP技法	手書きのPOPチラシを制作する	2後	60	2	△	○	○	○
44	○	検定対策	各種検定対策の実習時間	2前	30	1		○	○	○
45										
合計					44 科目		62 単位 (単位時間)			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：93単位以上の単位取得		1学年の学期区分	2期
<b>【必修科目】13単位、【選択必修科目】80単位</b> 選択必修科目は担任による個別面談で授業内容を決定している。個別履修方法：面談の結果、プログラミングを中心に学習する場合は8科目、デザインを中心に学習する場合は13科目を、選択必修科目群から選択し履修する。		1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。